



誰のための政治と行政か？監視と行動を

弥富市の真相を分析した
レポートをお届けします

出会いの場 やとみっけベース が生まれます

待望の市民活動センター「やとみっけベース」が4月19日グランドオープンします。
場所は「弥富まちなか交流館」、運営は「NPO法人ヤトミーティング」が担います。
多様な人々が交流する場として期待されます。 やとみっけ 弥富市地域資源バンク
https://yatomikke.com/
まずは、気軽に覗いてみてください。

多様性と持続可能性の重要性

QRコード



これからは多様性（ダイバーシティ）や持続可能性がますます重視されます。性別・年齢・出身地をこえた個性や人権の尊重、少数意見重視に転換が求められています。
これからの暮らしとまちづくりは、駅整備など施設整備重視のファクトリー型から対話と交流を重視するワークショップ型に変化していきます。

まずは 信頼できる友人を一人つくること から 始めましょう

互いに理解し協力し合うことで新たな気づきが生まれます。
多様な交流こそが豊かな暮らしを育みます。
災害や危機管理面でも、人的ネットワークは困難からの復元力を高めます。
普段から対等の交流と人間関係を厚くすることが暮らしを豊かにします。
「ひとは出会うべき時に、出会うべきひとに出会う」（ネイティブアメリカンの言葉）

出会いは無限
の可能性を秘
めています。

NPO法人ヤトミーティング
https://ytm-meeting.com/

QRコード



偶然の出会い
が必然となり

今までは従順が美德でしたが これからは自律と対話の時代

行政と議会こそ 対話・交流型(ワークショップ型)への転換を

価値観の転換と改革が最も遅れているのが行政と政治だということが明らかになってきました。お上が決めたことを鵜呑みにせず、行政に対して、市民と対話し、柔軟に計画を変更できるワークショップ型へ転換させましょう。

一人ひとりの声をつなげて みんなで 未来の姿を描こう

人格形成の基礎となる故郷 学校 原体験 原風景

故郷とは人との触れ合いや思い出の積み重ねから成り立っています。
学校の歴史は個々の経験によって形成され閉校してもその歴史は消えません。
教育は地域の自然環境や文化、なにより人との交流体験の上に成り立ちます。

いっしょに食べたり 体験こそが人生の土台に

全体の幸せなくして
個人の幸せはあり得ない

（宮澤賢治）

ひとりきり泣けても、
ひとりきり笑うことはで
きない

（中島みゆき）

元気と迷惑は
貸し借りができる
ひらめきは雑談の中に
気づきは対話の中に

（ある学校の会議にて）

令和7年3月議会報告

一般質問では、①組織が課題解決型になるために職場の心理的安全性について、②民間移管後の「保育の質」をしっかりと監視することについて、③統合校の建設地決定過程では住民の意思表明権と自己決定権がないがしろにされたことについて、④市街地と周辺部の格差の解消、農村地域のために市が住民の意見を調査することが必要であることについて、質問しました。

詳しくはホームページに項目ごとに要約を記載、スマホでも見られます。 satohitoshi.info/

QRコード

佐藤ひとし弥富

検索

単に 学校がなくなるだけではない 地域の存続がかかった問題です

8月に議会が「十四山中学校跡地で統合校の新築」を決議し、12月定例会では「住民から請願」まで出されたのに、結局、弥富市の進めてきた十四山西部小学校での既存校舎の改修と増築工事で計画が進められています。「決まったことをいまさら反対するのか」と言われそうですが、これまでの市と議会の対応が、住民を喜ばせたり失望させたりする決定過程となった原因を解明し同じ失敗を繰り返さないため、後世の市民への記録として質問しました。

憲法の精神に従えば「住民からの請願」が優先されるべき

日本国憲法第95条では「特定の地域に関わる法律は住民の過半数の同意が必要である」と定めています。統合対象区域の住民の請願を否決した議会の対応は「特定の地域に関わることは地域の同意が必要」という憲法の趣旨に反するものです。

不合理な理由で案を決定したことは 取り消されるべき決定といえる

統合校の建設地の候補として、中学校跡地を早々に評価対象から外した理由が意味不明で適切ではありません。評価対象選定に瑕疵（間違い）があります。

評価要素についても地域の安全性や防災など重要な項目が入っていない点に瑕疵があります。決定過程についても教育委員会の議事録など早い段階での公表が不十分であり、反対の住民意見を黙殺するなど瑕疵があると言わざるを得ません。

このように何重にも瑕疵がある決定は、常識的には取り消されるべき決定といえます。

教育的に問題

記録を残さない
行政活動は
こどもに説明で
きません。



小中学校の統廃合問題
satohitoshi.info/school/



令和7年3月24日に78年の歴史を刻んだ十四山中学校の閉校式が弥富市と弥富市教育委員会の主催で挙行されました。式典でしめやかに校旗をたたみ厳かに幕を閉じました。市は未来へ歴史を継承する責務を考えているのでしょうか？今こそ十四山中学校と十四山村の歴史と自然と文化を背景とした人材育成の再評価をするべきです。そのための聞き取り調査や資料収集などを、たとえば歴史民俗資料館が弥富市としての責任をもって行うべきです。

政治家と公務員は 自分のために地位と権力を使うな

広報やとみには、弥富駅整備、統合校建設について何を比較して、なぜこういう計画になったのか政策決定過程の説明がなく透明性が欠如していませんか？上が決めたら異論を言うのは憚られる雰囲気蔓延してませんか？外部から良い修正案がでてでも無視してませんか？権力のブラックボックス化といわれてもおかしくない状態が今の弥富市の政治と行政の真相ではないですか？

検討過程や住民意見を記録し公開しないとは？

検討経過の記録も批判的な住民の声も記録し公開しない姿勢が問題です。その問題を指摘しても「隠蔽にはあたらない」と無自覚な答弁には残念至極です。

議会の形骸化

議員は公の場で所見を述べ政策をチェックする責任があります。議員の住民の声を代弁する質問に対して、正面から真摯な答弁をせず、質問時間を浪費するだけの反問が行われました。これは議会と住民を軽視していると思えませんか。

今年民間移管された「ひので保育所」 移管後も 市は きちんと関与できるのか

弥富市は平成4年に経費削減を主な目的として建物を減らすために、ひので保育所と弥生保育所の民間移管を決めました。これについては、質の面で大きな問題があり合理的な判断と思えないことは既に指摘してきました（ホームページで詳しく解説しています）。本議会では、移管された保育園の質をどう担保していくかについて質問しました。

民営保育所 使える経費には限界がある

間接管理費、施設維持費、人件費などの経費は公定価格（政府が定めた園児一人当たりの標準額）の範囲内でしか賄えません。さらにその中から余剰金を生み出し、将来の建て替えに備えて積み立てる必要があります。公定価格が低いことが、民間保育園の保育士の待遇改善が進まない原因だと言われています。

移管後の指導体制について情報開示と市民の関与を

市は「第三者委員会を通じて関与し、是正勧告や指定の取り消しを行う可能性がある」と答弁していますが、市だけで実効性がある指導ができるかは疑問です。移管後も公立並みの質を保つために情報の開示と意見収集が重要です。

公立保育所の利点

必要な人員や施設などの経費を予算として計上しています。
障がい児を含めた全てのこどもを可能な限り受け入れることを公約し、事実上義務づけられ、必要な経費は予算で賄われています。

保育所民営化問題の解説
satohitoshi.info/hoiku/



学校が廃止される農村地域の 格差と不安の解消を

今春に中学校が1校廃校し、令和10年に小学校3校を廃校することが決定されています。高齢化と少子化が進んでいく中で、住民が納得できる地域のビジョンを示していると思えません。これからの地域のありかたと行政の役割について質問しました。

地域間格差を補うことこそ行政の役割

タテマエでは農村地域の振興ですが都市計画マスタープランの本音は中心市街地への誘導です。地域課題を明らかにし住民が喜んで住み続けられる政策を。

住民意見の反映と 慎重な学校跡地利用を

学校跡地の利用については、住民全員の意見を収集し、軽々に民間に売却しないことが重要です。全員のアンケートを通じて住民の声を集める必要があります。地域の問題解決には、住民の参画と合意形成が不可欠であり、時間をかけて地域の意見を反映させるべきです。市はこの点について明確な答弁をしていません。

真の対等関係

お互いの要求や助け合いについて「半分ずつすればいい」と思っていると隙間が生まれてうまくいきません。
お互いが相手に「7割」やってあげるようにするという感じになります。
特に大きい方は、小さい方と対等の関係を作ろうと思えば、小さい方に対する敬意と配慮が不可欠です。

住民のためにこそ 地位と権力を使うべし

権力者は無自覚に批判的な意見を無視し、情報の隠蔽によって権力を維持します。政策決定過程は住民に全て公開が大原則です。住民の声は少数意見でも真摯に聞き取りその声を政策に生かしてください。役に立たない施設と無駄な事業費のつかけを払うのは結局は住民です。住民と議員が市政を監視することが重要です。

あらゆる選択肢を排除せず 合理的な議論と合意形成を

市長、副市長、教育長、弥富市職員、議員は「住民が第一である」という大志を胸に就任されたはずですが、しかし政治も行政も利害調整が難しい。だからこそ初心を忘れず反省し、住民に対して真摯に説明責任を果たさなければなりません。

歴史は繰り返す

権力者は自信たっぷりに主張し理由を示さないことで支配を維持します。支配される側はつい諦めてしまうという悪循環が繰り返されています。
現在の行政や政治の状況は、第二次大戦前の全体主義国家の雰囲気似てきていませんか？

新しい風やとみ ワイガヤ懇談会

学び 働き 暮らしの つながりを

対等の交流(ワークショップ型)の場をもちます。

弥富の課題と未来について対話しましょう。

日時:2025年5月24日(土) 午後1時30分~4時

会場:十四山福祉センター 2階 集会室

弥富市子宝六丁目80

お客様:どなたでも 参加費:無料

主催:新しい風やとみ

申し込み:不要ですが、席の配置の関係上

ホームページから[オンライン受付](#)をしていただけると嬉しいです

お問い合わせ・申し込み 電話090-6073-2413(佐藤仁志)まで

新しい風やとみ 懇談会

satohitoshi.info/2025/04/03/1-113/



うちは、おれも含めて、全員が社員なんだ。

身分の相違は一つもない。

仕事によって給料の差はあるが権利は一緒だ。

私達はもちろん一生懸命やりました。

自分の思うことだから、精一杯やれた。

命令されて仕事をしたんじゃない。

人間は自分の考えで物を作るぐらい愉快で、

苦労はあるけど、心を満足させるものはない。

自分の意思がはいるのだから。

ニッポンの経営者 本田宗一郎氏の言葉

住民の声を集めてから 課題や希望を話し合う場を

住民意向調査の後で 廃校跡地利用検討を

これからの地域の暮らしでどんなことが課題か、どうしたいか、自治会、地域の住民や団体、地元企業がどうやって地域全体を盛り立て、跡地利用に関わり活用するかを考えるための材料として意向調査をすべきです。廃校跡地を有利に取得したい民間が提案する見栄えだけの案に飛びついてはいけません。

全員の意向調査と自分事化を

そのためには、世帯単位でなく全員の意向調査で生の声を拾うべきです。

調査結果を話し合いの材料としてこそ地域の共通課題がみえてきます。

みんなの声があればこそ、話し合いから新しいものが生まれます。

特に若い人の声と参加は地域問題の自分事化が進むと思います。

そこで、地域で調査すべき設問を皆様の協力で作ります。

アンケート案ができれば、実際の地域での調査に活用してほしいと思います。

アンケート案のテスト

地域で実施したいアンケートの試案を作りました。協力者に体験してもらい設問が適切かどうか意見をいただいて設問を修正して成案にします。

スマホ、パソコンからご協力をお願いします。

地域の暮らしと未来を考えるアンケート案 募集ページ

satohitoshi.info/2025/04/03/1-112/



弥富市議会主催 議会カフェ ご参加ください

開催日時

開催場所

①7月2日(水)19時 環境改善センター/1F 多目的ホール、2F 生活研修室

②7月5日(土)14時 白鳥コミュニティセンター/1F 多目的ホール、1F 研修室

③7月5日(土)19時 総合社会教育センター/2F 第2会議室、2F 研修室

④7月6日(日)10時 総合社会教育センター/2F 第2会議室、2F 研修室

主催:弥富市議会

お問い合わせ:議会事務局

電話:65-1111(内線5511. 512)

各テーブルで、テーマに沿ったご意見ご要望ご質問などを承ります。テーマは

○総務(防災・財政)

○建設(商工業・農業・都市計画)

○健康福祉・生活(公共交通・環境)

○教育(学校・生涯学習)

発行人: 新しい風やとみ

〒498-0012 愛知県弥富市五之三町福島46番地

携帯電話: 090-6073-2413

E-mail: mail@satohitoshi.info

弥富市議会議員 佐藤仁志

佐藤ひとし弥富

検索



ホームページもご覧ください

<https://satohitoshi.info>

HPのQRコード

